

2018年4月9日

各 位

会 社 名 東京センチュリー株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 浅田 俊一
(コード番号 8439 東証1部)
問 合 せ 先 広報 I R 部長 山下 圭輔
(TEL 03-5209-6710)

台湾における水上太陽光発電事業への新規参入について

東京センチュリー株式会社(本社:東京都千代田区、以下「東京センチュリー」)は、CIEL ET TERRE TAIWAN LIMITED(本社:台湾、漢字表記:夏爾特拉太陽能科技有限公司、以下「シエル・テール」)、株式会社九電工(本社:福岡県福岡市)、九電みらいエナジー株式会社(本社:福岡県福岡市)と共同で、シエル・テールが開発した台湾の水上太陽光発電事業を行うSPC(特別目的会社)に出資することに合意いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

本件は、東京センチュリーのエネルギー事業として、初めての海外直接投資プロジェクトです。台南市が保有する2つの調整池の水面約5万㎡に、合計約5.1MWの太陽電池モジュールを設置し、年間発電量は約640万kWhを見込んでいます。今般、2018年4月から運転を開始する樹谷(スグ)第2発電所(約1.1MW)に対する出資について合意したもので、樹谷(スグ)第1発電所(約4.0MW)につきましては、2018年9月の完工に向け検討を進めてまいります。両プロジェクトともに、発電した電力は、全量台湾電力株式会社への売電を予定しています。

台湾では、日本と同様、再生可能エネルギー由来の電力を20年間固定価格で買い取るFIT制度が2010年から導入されています。同国は現在の蔡英文政権の下、太陽光、風力などの再生可能エネルギーで自給率を向上させ、「循環型経済」を実現するために、2025年までに全電源の20%(25GW相当)を再生可能エネルギー由来のものにする目標を掲げており、今後、更なる電源開発需要と市場規模拡大が見込まれます。

東京センチュリーは、現在、日本全国で79カ所・合計約312MW^{※1}の太陽光発電所を保有・運営しています。このうち、シエル・テールグループと共同で開発した水上設置型発電所は7カ所あり、2018年3月に稼働した千葉・山倉水上メガソーラー発電所は日本最大^{※2}の約13.7MWの出力規模を誇ります。

東京センチュリーグループは、「環境に配慮した循環型経済社会の実現への貢献」を経営理念に掲げており、再生可能エネルギー事業を拡大させることで、温室効果ガス削減、エネルギー自給率向上といった社会的意義の高い取り組みを進めています。本件を機に、日本国内で蓄積してきた知見を活かし、台湾における再生可能エネルギー事業の拡大を目指してまいります。

※1.2018年4月9日時点、稼働済みとして

※2.稼働済みの水上太陽光発電所において(2018年4月9日時点、東京センチュリー調べ)

【樹谷第1・樹谷第2 発電所概要】

	【樹谷第1 発電所】	【樹谷第2 発電所】
所在地	台南市新市区樹谷サイエンスパーク内 調整池	
会社名	AIBISHI ENERGY CO., LTD. 愛弼士能源有限公司	CHAOHUI ENERGY CO.,LTD 昭暉能源股份有限公司
最大発電出力	約4.0MW	約1.1MW
年間予想発電量	約500万 kWh	約140万 kWh
売電先	台湾電力株式会社	
工事開始	2018年4月 (予定)	2018年1月
運転開始	2018年9月 (予定)	2018年4月

【樹谷第2 発電所写真】



以上